

## 令和2年度東京農業大学校友会北海道支部定期総会（挨拶部分）

### 吉田学部長：

改めて、網走にございます生物産業学部で学部長を拝命しております吉田と申します。本日は校友会の北海道定期総会開催、まことにおめでとうございます。また、このような席にご招待いただきまして感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

さて、私のほうからは少し大学の状況というようなことで、早坂支部長あるいは萬歳会長のほうからのお話と重なる部分はあるかと思いますが、少し今ある大学の状況ということでお話しさせていただきます。

資料的には、まだこれから次年度ということですので、昨年の入試がありまして、無事しっかりと学生数を確保できたということで、現在は1月末に次年度の令和2年のセンター入試・一般入試の手続きが終わったというような状況でございます。推薦系についてもすでに終わっております。

その中で先ほどからお話がありますように、今年度からは東京農業大学、生物産業学部は少し前からAO入試ということで入試を始めましたが、東京農業大学全体といたしまして、今年度からAO入試という自己推薦型というかたちの入試を開始させていただきました。これにつきましては、いまだんだん受験生といえますか、高校生の「早く大学を決めたい」という傾向にあるということでございます。ですので、優秀な有為な学生さん、しっかりと我々の大学で学びたいという学生さんをしっかりとキャッチしていきたいと。それからAO入試ですので、一般入試で成績という部分もあるんですが、ちゃんと本人を見て、あるいは願書を見て、あるいは口頭試問というかたちで本人にしっかりと会って話しをして、そして本当に我々の東京農業大学でしっかりと学んでいきたいんだという、そういう学生を得るということは、これは非常に我々の大学、これから将来についても非常に重要なことだと思いますので、これはぜひ校友会の皆様方の周りで良い人材がいましたら、ぜひ発掘して大学のほうに推薦といえますか、勧めていただきたいということでお願いをしたいということでございます。

一般入試につきましては、先ほどにも言いましたように締め切りがありまして、センター入試は昨年なみで、一般入試についてはやはり学長からのお話では、ちょっと景気が良いということで、どうしても経済・経営系のところに流れていってその志願が増えている傾向で、農学というのがこの間のところで、少し昨年に比べて落ちましたが、ひどいということではなくて、そういう傾向にあったということで大体前年比90数%で推移しているということで、2月の3、4、5日、それから2月の下旬に一般入試、センター入試の合否が決まっていくということでございます。

それから一方、就職についても、昨年度の平成30年度につきましては大学全体で97%で、今は景気が非常に良いということで97%の就職率があったということで、今年度につきましては、

まだ集計が途中でございまして、全体で集めたものが10月の時点でございまして、その時点では83.9%というようなかたちになってございます。少しオホーツクのキャンパスの人間でございしますので、オホーツクの学生も頑張ってくれていて、こちらは同時点で91%ということで、これをご承知かと思うんですが、オホーツクというのは道内出身者が今年ですと全体の7%ぐらいです。93%ぐらいが道外の出身ということなんですが、道内の就職は、今日は事務長が来ていただいているんですけども、道内の就職は15%です。ですから道内に残っていくという学生がいるということで、この10月14日時点の調べでは、道職員にはいまは4名、それからJ Aさん、J Fさんというか漁協さんで11名、それから道内の民間、あるいは役場というようなところに45名というようなかたちで道外からやって来ているんですが、4年間ここオホーツクという、北海道で学んだということで、そういう人間がしっかりと根付いて残っているということです、ぜひどこかでそういうオホーツクの学生がいましたら、校友の皆さん方としてサポートしていただければありがたいなということで、ぜひよろしくお願い申し上げます。

それから今度は設備ということで、これも先ほど萬歳会長のほうからお話がありましたように、厚木キャンパスでは新しく学科が4学科になったということで、学生の実験実習の場所を確保ということで厚木キャンパスでは実験実習棟が建設されまして、今学期からすでにスポーツ部と共用してスタートをしたということでございます。

それから世田谷キャンパスにつきましては、新研究棟ということで、その名称を「サイエンスポート」ということで、本当に巨大な建物というか戦艦が、1階部分でサッカーコート1面ということだそうです。廊下ですと、直線で125mぐらいあるという、そういうものが8階建てで建ったというような、そういうすごいものができているということで、皆様方が学んだ姿とは少しずつ変貌していくということで、これはその中に現在世田谷キャンパスにございます学部・学科の研究室が全て入るということです。これは春の総会の時に理事長・学長からお話がありました。なぜそうしたのかと言うと、やはりこれからの社会、今まではそれぞれ専門領域の中でそれを磨きつつ先端をとということでしたけれども、やはりこれから持続的な社会というものが生まれた時には、もう実社会ではいろいろな専門分野が融合していくということである、そういうことを考えた時、農学というのはまさしくそういう部分で、いま大学では「生きるを支える」ということを大きなキャッチフレーズとして、我々人類を支える、その根本が農学である、それを総合的に教えられる大学は我々しかないというような想い、そういった時にそれを実際に研究のところも具現化する。どうしても我々大学教員は研究者ですので一つひとつ、皆様方は社会に出られていますので、広くいろいろな領域をカバーしなければ仕事にならないということですけれども、どうしても大学の教員は自分の専門領域のところが楽しくなってしまうので、そこに集中してしまうと。それではやはり農大の本来の建学の精神である、「現場に返す」という、そういった中でやはり一つの場所にいろいろな研究室や学部が集まって、いつでも教員、あるいは学生が交流して何か新しいものを生んでゆく、そういう考えで一つの建物の中に全学部、全研究室を入れて、これからの新しい農学のあり方をつくろうということで造られたとお聞きしております。そうい

った意味で「サイエンスポート」ということで、「港」ということですので、校友会の皆様方もぜひ何かあったら世田谷キャンパスの話は、そこからいろいろなものが拡散していったって広がっていくのではないかと考えてございますので、ぜひご活用いただければと考えてございます。

それからまた研究の部分についても非常に活発に行われておりまして、その中で2点ほど。1つはこれも一昨年に、北海道ですのでロシアのウラジオストクにあります連邦極東大学と連携協定を結びまして、その中で、やはりロシアのほうから、やはりウラジオストクは、水産業はなかなか良いんですけれども、やはり野菜とかそういうものはないと。その中でやはり農学という部分は、なかなかそういう資源がないということで、農大と一緒にということで、その1つのシンボルとしてまずはイチゴの栽培をしよう。それでやはり高級で、日本のイチゴというのは皆さんご承知と思いますけれども、非常に大きくて美味しくて甘くて良いイチゴで、非常に価値のある、そういったイチゴをロシアでも生産して、ロシアの中で流通させていくということを目指してということですが、ロシアの連邦極東大学と一緒にハウスを建て、そしてイチゴを栽培して、東方経済フォーラムがあった時に大澤理事長もご出席になって、双方で美味しい立派なイチゴを食べたと。そのイチゴにつきましては北海道のホープさん、イチゴの市場でお聞きがあると思いますけれども、ホープさんの技術をいろいろお教えいただきながらやっていたということで、北海道ということとロシアということで、そういう国際的な協力を進めて、これをさらに発展させていきたいなということがございます。

それからもう1点は、12月にありました農大和牛ということで、近大マグロではないですが、これは農学部の畜産の岩田先生が農大和牛ということで、狙いとしては、今はサシの入ったあいう牛が非常に甘くて美味しいということだけでも、そうではなくて、「もっとヘルシーで健康な赤身のある、そういった美味しい和牛を」ということで、そういう考え方で農大和牛というものをつくれるということ、それも全部草から食べさせたものと、それから従来通り少し穀物を入れたものということで、そういったものでこれからどういうものが実際の社会の皆さん方、消費者の皆さんに受け入れられるかと考えながら、そういった農大和牛というものをひとつつくっていかうということで社会に発信していこうという取り組みもスタートしておりますということで、何かそういったようなことがありましたら、またぜひいろいろなアイデア、あるいは地域と連携するということで、そういったことも現場の中で活躍されている校友の皆様方からアイデアをいただいて、また、それが農大の研究のシーズになっていくということになりますので、ぜひご協力いただければありがたいかなと考えてございます。

長くなってしまうので最後は、先ほどからありました駅伝はここ数年残念な結果が続いていますが、一昨年はボクシング部、レスリング部のほうでは選手は活躍しているということをお聞きしております。それから何度も言いますが、オホーツクですので、硬式野球部は昨年春は神宮でベスト4、秋も北海道のリーグ戦で全勝優勝して、残念ながら道代表には敗れてしまいましたが、春は神宮に出させていただきまして準決勝まで進めさせていただきました。これも本当に校友の皆さんのご声援のおかげだと思います。それで最後の準決勝は明治大学ということでし

た。春の大会で1万人が入った試合で、一番その大会で多かったと。スタンドも本当に校友の皆さんがスタンドに来ていただきまして、明治の応援に負けないというぐらいの声援を送っていただきまして、本当に8回のところで残念な結果になってしまいましたけれども、これもそういう励みになりましたのも、校友の皆様方のご声援のおかげかなと思います。野球部では日本ハムで北海道ですと井口君とか玉井君ですけれども、あとは最近ではソフトバンクの周東君、侍ジャパンに出て、今はオリンピックに入るか入らないかというところですが、ぜひこれも皆様方のご声援をいただいて、彼が頑張るようにしていただければと思います。

それからちょっと隠れた部分ですが、実は競技スキー部もオホーツクにありまして、競技スキー部も実は大学1部でございます。ですので、大学1部で日本の全国の東京の大学と統合して13校の中に入っております、7位、8位といったところで頑張っているということでございます。それで2月に入りますと、秋田で大学の選手権のインカレがございます。

それから今年は国体とそれから最高峰の競技が札幌でも開催されるということで、それは選手たちの出身各県の所で予選を突破した人間しか出られませんが、札幌でもそういう大会がございますので、農大の学生がそこで活躍するかもしれませんので、何か機会がございましたらぜひ応援に駆けつけていただければありがたいかなと思います。

それからもう一つなんですけれども、うちは常呂に近いものですから、カーリング部という部もありまして、本当に初心者でございます。それが仲間で4年間やりまして、今年は12月に開かれました全日本の大学で男子は3位、それから女子は4位ということで、結構頑張ってくれておりますので、札幌にも会場があるということでございますので、ぜひ札幌に出てきた時にもご声援いただければありがたいかなと思ってございます。

こういった感じで、この大学でございますが、本当にこれから萬歳会長からありましたように少子化です。今年は90万人を割ったということですが、20年後はそれだけ、いま110万人ぐらいですから、20万人ぐらいお子さんが少なくなってしまうと。進学率がある程度高止まりしますので、一気に同じようには下がらないかもしれませんが、やはり大学というのは教育研究の場でございまして、学生がいる、それも有為にしっかりと学びたいという学生がいるということが、これがやはり大学の一番重要なことだと思ってございます。これは本当に校友の皆様方がやはり大学を出身していただいて、「東京農業大学はこういうところだ」ということをよくご存じの校友の皆様方が目をかけてくれた学生というのは絶対間違いないと思ってございますので、大学、それから特にオホーツク、何とか北海道出身者をたくさん入れたいと思ってございます。ですので、なかなか札幌からするとオホーツクというのは地の果てなので、なかなか振り向いてはくれないんですけれども、ぜひ「オホーツクって面白いんだよ」ということを北海道の校友の皆様方から発信していただければありがたいかなと思います。

ということで、少し長くなりましたけれども、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもおめでとうございます。